

JA全農ちば 営農情報集

2022
7

今月の情報

1. 水稻 当面の対策について
2. 園芸野菜 病害虫防除情報
3. 果樹(ナシ)病害虫防除情報
4. 農業経営のリスクを減らしましょう ～熱中症対策～
別紙. 寒玉キャベツ品種試験について

7月の気象について（気象庁7/7発表 長期予報（1か月）から）

- ・ 関東甲信地方は6月27日に平年よりかなり早い梅雨明けが発表されました。
- ・ 7月は気温が高くなる予報となっています。
- ・ 害虫の発生や温度管理には十分な注意が必要です。また、作業中の熱中症にも注意しましょう。

【気温】	10	30	60
【降水量】	30	30	40
【日照時間】	30	40	30

凡例 ■: 低い ■: 平年並 ■: 高い

（長期予報は毎週木曜 14 時 30 分に発表されます。週予報とともに確認し今後の栽培管理の計画を立てましょう）



全農では農業施設の台風対策・パイプハウスの建て方動画などを公開しています

アピネスアグリインフォ自然災害対策をご参照ください

HP : <https://www.agri.zennoh.or.jp/N_index.aspx>または「アピネス」で検索Q

注意とお願い

農薬登録内容は掲載時点の情報です。農薬を使用する際に必ず最新の登録内容をご確認ください。

水稻・当面の対策について

～コシヒカリの穂肥、乳白防止・カドミウム抑制の水管理、本田防除～

J A全農ちば 営農支援部

1. はじめに

本年は非常に早い梅雨明け（6月27日）となり、気温・日照ともに高く推移しています。4月20日植えのコシヒカリは6月25日頃から、5月1日植えのコシヒカリは6月29日頃に幼穂形成期を迎えています。

過繁茂状態の圃場は倒伏や品質低下を避けるため、穂肥の施用時期・量に注意しましょう。また、還元障害(ガス害・ワキ)が出やすい圃場は「根の活力維持」のためにも幼穂形成を確認するまではしっかり中干しを行いましょう。

2. コシヒカリの穂肥の施用について

穂肥の施用適期は出穂前18日～10日（幼穂形成期7日～15日後・幼穂長1cm～8cm）で、施用量の目安は10a当たり窒素と加里を各3kgです。施用時期が早いと倒伏や粒数過剰による登熟不足や玄米の外観品質低下を招き、遅い穂肥は玄米中の粗タンパク質含有率が高くなり食味低下につながります。生育を確認し、茎数の多い圃場や葉色の濃い圃場では、施用量を減らして対応しましょう。

表1. コシヒカリ幼穂形成期予測と穂肥施用適期の目安

植付時期		県北	九十九里	内湾	県南
4月20日	幼穂形成期予測	6/29	6/26	6/25	6/25
	穂肥目安	7/6～ 7/14	7/3～ 7/11	7/2～ 7/10	7/2～ 7/10
5月1日	幼穂形成期予測	7/3	6/30	6/29	6/29
	穂肥目安	7/10～ 7/18	7/7～ 7/15	7/6～ 7/14	7/6～ 7/14

出典：千葉県 水稻の生育状況と当面の対策第4報（令和4年7月1日号）より

3. 乳白米防止とカドミウム吸収抑制のために水管理の徹底を！

乳白米と自然由来のカドミウム吸収を抑えるため、幼穂を確認したら入水し、出穂3週間前～出穂2週間後まで（計5週間）は湛水状態を保ち、収穫直前の出穂後25日頃まで間断かんがいを続け、早期落水は避けましょう。

乳白米は天候や生育量、肥培管理など様々な要因により発生します。特に登熟期の水不足は乳白米等の多発生につながるので湛水管理をしっかりと行い品質の低下を防ぎましょう。

4. 斑点米カメムシ類対策について

「ふさおとめ」や「ふさこがね」などの早生品種は、まもなく出穂期を迎えます。出穂後に斑点米カメムシ類が周辺の雑草地などから圃場内に飛び込んできますので、特に注意が必要です。

(1) 雑草防除

圃場周辺の畦畔や休耕田などの雑草地は、カメムシの発生源になるため、雑草防除は効果的ですが、出穂前後の草刈りはカメムシ類を圃場内に追い込むことになりますので、**出穂の2週間前まで**には圃場周辺の雑草を防除しましょう。

(2) 薬剤防除

有人・無人ヘリコプターによる防除を行っている場合でも圃場をよく観察し、必要に応じて追加防除を行いましょう。

粉剤または粒剤を使用する場合、粒剤の方が農薬の飛散対策や使用者の労力負担軽減の面で有効的です。散布に当たっては、風向き等の気象状況を十分考慮して散布するようにしましょう。

表2. 斑点米カメムシ類対策薬剤防除の目安

出穂期	1回目散布（出穂期～穂揃期） 【成虫対象】	2回目散布（乳熟期～糊熟期） 【幼虫対象】
7月15日	7月15日～18日	7月29日～8月3日
7月20日	7月20日～23日	8月3日～8月8日
7月25日	7月25日～28日	8月8日～8月13日
7月30日	7月30日～8月2日	8月13日～8月18日
8月5日	8月5日～8月8日	8月19日～8月24日

※出穂期は全体の40～50%が出穂した日・穂揃期は全体の80～90%が出穂した日です



表3. カメムシ類 防除薬剤

薬剤名	使用量 (10a)	使用時期 (収穫前日数)	使用回数	備考
スタークル粒剤	3kg	7日前まで	3回以内	出穂期～穂揃期に湛水状態で散布 (水深は3～5cmがベスト)
スタークル豆つぶ	250g			出穂10日前～出穂期に湛水状態 散布
キラップ粒剤	3kg	14日前まで	2回以内	
トレボン粉剤DL	3～4kg	7日前まで	3回以内	
MR.ジョーカー粉剤DL	3～4kg	7日前まで	2回以内	
MR.ジョーカーEW	2000倍	14日前まで		

農作業安全 水稻空散ヘリ防除時の安全確認！

食の安全安心 土壌消毒剤使用時は必ず被覆！

※ 本資料の無断使用・複写・転載を禁じます JA全農ちば

5. 本田病害対策について

(1) いもち病

感染に好適な条件は、平均気温 16～25℃で、イネが雨や露で濡れている状態が続くと発生しやすくなります。蒸れやすい状態（補植用の苗など）や窒素過多でも発生が助長されます。圃場をよく観察し、初期防除に努めましょう。



(2) 紋枯病

・水田に落ちた菌核が越冬し、代かき時に水面に浮上、イネの株元に付着し伝染します

・高温多湿条件で発生が多く、過繁茂（茎数増加）は発病を助長するので注意しましょう

・本病による葉鞘の枯れ上がりは倒伏を助長します

・薬剤での防除適期は出穂前 20 日～15 日頃です

・発病率が高い（株 15%以上）場合は、出穂期にも追加防除を行います



表 4. いもち病・紋枯病 防除薬剤

薬 剤 名	使用量 (10a)	適用病害	使用時期 (収穫前日数)	備考
オリブライト1キロ粒剤	1kg	いもち	出穂 10 日前まで	予防・治療
オリブライト 250G(豆つぶ)	250g	紋枯	(但し、収穫 45 日前まで)	
ダブルカット粉剤3DL	3～4kg	いもち	穂揃期まで	予防・治療
モンガリット粒剤	3～4 kg	紋枯 稲こうじ	収穫 45 日前	予防・治療
ラテラ粉剤 DL	3～4 kg	いもち 稲こうじ	収穫 14 日前	予防・治療
フジワンモンカット粒剤	3～4 kg	いもち 紋枯	収穫 30 日前まで (出穂 30～10 日前まで)	予防
バリダシン液剤5	1000 倍	紋枯	収穫14日前まで	治療
ブラシン粉剤DL	3～4 kg	いもち	収穫7日前まで	予防・治療

園芸野菜 病害虫防除情報

J A全農ちば 営農支援部

1. はじめに

本年は非常に早い梅雨明け（6月27日）となりました。今後、晴天が続き気温が高くなる予報ですので、施設栽培では温度管理に、露地栽培では高温性病害に注意しましょう。

また、7月は施設栽培（トマト、キュウリ、ナス、イチゴ等）、露地栽培（秋冬ニンジン等）ともに土壌消毒の時期となります。下記、土壌消毒時のポイントを参考に適切に実施しましょう。

2. ネギ【白絹病・軟腐病】

白絹病も軟腐病も高温（30℃前後）と多湿が重なると発生しますが、降雨が無い場合でも灌水や土寄せで株元が蒸れると発生しやすくなります。灌水は早朝か夕方に、土寄せは片側ずつ行うなどの工夫が大切になります。

（1）白絹病

地際に白いカビが発生し、その後ゴマ粒状の菌核が作られます。菌核は残さとともに土壌に残り、越冬します。土寄せに合わせて薬剤防除を行いましょう。

（2）軟腐病

細菌性病害で防除薬剤が限られます。地際がとろけるように腐敗し、悪臭が発生します。



白絹病

○ネギ 白絹病：白・軟腐病：軟 防除薬剤

対象病害	FRAC	薬剤名	希釈倍数・使用量	使用時期	使用回数※	備考
白	29	フロンサイド粉剤	15kg/10a	土寄せ時但し 収穫 21 日前	2回以内	予防
	7	モンカット粒剤	4～6kg/10a	土寄せ時但し 収穫 30 日前	3回以内	予防
		モンカットフロアブル 40	2000 倍			
		アフエットフロアブル	2000 倍	収穫前日	2回以内	予防
	11	メジャーフロアブル	2000 倍	収穫前日	3回以内	予防・治療
軟	24・M1	カスミンボルドー※	1000 倍	収穫 14 日前	2回以内	予防・治療
	24・31	カセット水和剤※	1000 倍	収穫 14 日前	2回以内	
	31	スターナ水和剤※	2000 倍	収穫 7 日前	3回以内	
	31・M1	ナレート水和剤※	1000 倍	収穫 14 日前	3回以内	

※カスミンとカセットは同成分（カスガマイシン）を含むため合わせて2回まで、カセット・ナレート・スターナは同成分（オキシリニック酸）を含むため合わせて3回までのため、それぞれ総使用回数に注意。

3. イチゴ【炭そ病】

ランナーや葉柄の病斑に形成された胞子が雨や灌水の飛沫とともに飛散し、托葉の部分からクラウン部を侵します。頭上灌水は発病を助長しますので、灌水をする場合は底面吸収か株元にのみの灌水にとどめましょう。県内では QoI 剤（アミスターなど）の効果が低下しています。治療的で有効な薬剤が少ないため、予防剤を主体に防除を行いましょう。



○イチゴ 炭そ病 防除薬剤

FRAC	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	備考
M7	ベルコートフロアブル	1000 倍	育苗期(定植前)	5回以内	予防
M3	ペンコゼブ水和剤	600 倍	仮植栽培期 但し収穫 76 日前	6回以内	予防
	アントラコール顆粒水和剤	500 倍	仮植栽培期	6回以内	予防
M4	オーソサイド水和剤80	800 倍	収穫開始 14 日前	5回以内	予防
M1	キノンドーフロアブル	500～800 倍	育苗期	3回以内	予防
10+1	ゲッター水和剤	1000 倍	収穫開始 21 日前	3回以内	予防・治療

4. 土壌消毒時のポイント

<土壌消毒剤の選択>

薬剤により対象病害虫が異なりますので、圃場で発生している病害虫の状況に合った薬剤を選択しましょう。

○土壌消毒剤 効果の特徴

薬剤名	薬剤分類	センチュウ	病害	雑草種子
D-D剤(テロン・DC油剤)	D-D	◎	×	×
クロルピクリン (ドクロロール)	クロピク※	△	◎	×
ソイリーン	D-D クロピク※	◎	◎	×
ガスタード微粒剤 (バスアミド微粒剤)	MITC	○	○	○
ディ・トラベックス油剤	D-D MITC	◎	○	○

※クロルピクリン剤は被覆が必須です！

<土壌消毒剤の使用>

(1) 薬剤は土壌中でガス化するため、被覆が必要でしょう

特に高温時はガス化が早いため、被覆を行わないとすぐにガスが抜けきってしまいます。ポリエチレン等の資材（厚さ 0.03 mm 以上）による被覆を行いましょう。

(2) 土壌水分の目安は、土を手で軽く握って割れ目ができるくらいにしましょう

(3) 圃場の衛生状態を維持しましょう（耕種的防除）

前作の残さはセンチュウ・土壌病害等の発生源となるので、収穫後にうない込まず、可能な限り圃場外へ持ち出しましょう。

果樹(ナシ)病害虫防除情報

J A全農ちば 営農支援部

1. はじめに

関東甲信地方は6月27日に梅雨明けが発表されました。気温が上昇すると害虫の急増が懸念されます。シンクイムシ等のチョウ目や、果樹カメムシ類、ハダニ類の発生状況をよく確認しましょう。また、引き続き黒星病の拡大には注意が必要です。油断せず、果実の黒星病防除も徹底しましょう。なお、本年は開花がやや早かった分、収穫開始も早まる可能性があります。薬剤散布時期には十分注意しましょう。

2. 黒星病・輪紋病対策



黒星病



輪紋病

【7月】黒星病、防除薬剤（輪紋病防除を含む）

7月上旬：インダーフロアブル【DMI (EBI) 剤】	10,000 倍（収穫7日前／3回）
＋ベルコートフロアブル	1,500 倍（収穫14日前／5回）
7月中旬：フルーツセイバー【SDHI 剤】※	1,500 倍（収穫前日／3回）
＋オーソサイド水和剤 80	1,000 倍（収穫3日前／9回）

※輪紋病多発園ではフルーツセイバーの代わりにパレード 15 フロアブル【SDHI 剤】2,000 倍（収穫前日／2回）でもよい。

収穫期：トップジンM水和剤（輪紋病対策） 1,500 倍（収穫前日／6回）

- ・黒星病の感染適温は15～25℃です。気温が上昇すると黒星病は広がりやすくなります。防除期間終了の目安として、平年ではこの条件となるのは7月中下旬頃です。
- ・今後の防除において、収穫日数が短めの剤にはオーソサイド水和剤 80（3日前）や、下記の炭そ病対策のストロビードライフフロアブル（前日）があります。
- ・ベルコートフロアブル、オーソサイド水和剤 80 は予防に加え耐性菌発生対策のため使用します。
- ・オーソサイド水和剤 80 は果実汚れを生じる場合があるので、対策が必要な場合、展着剤まくぴか 10,000 倍を加用しましょう。調合時は泡立ち防止のため最後に加えましょう。
- ・収穫期以降の炭そ病対策では、ストロビードライフフロアブル（2,000 倍・収穫前日・3回以内）を散布します。特に台風が接近する場合は、事前に防除を行いましょう。

3. カメムシ・シンクイムシ類対策 防災網の設置が不十分な園は特に注意！



カメムシ類・シンクイムシ類

7月上旬：テルスターフロアブル 3,000 倍（収穫前日／2 回）【カメシ・シンクイムシ対策】

7月下旬：サムコルフロアブル 10 5,000 倍（収穫前日／3 回）

【シンクイムシ対策・発生時の緊急防除にも使用】

収穫期：ロディー水和剤 1,000 倍（収穫前日／2 回）【カメシ・シンクイムシ対策】

【カメムシ発生時】

7月中旬：MR. ジョーカー水和剤 2,000 倍（収穫 14 日前／2 回）

7月下旬：アグロスリン水和剤 1,000 倍（収穫前日／3 回）

多発生時：スタークル顆粒水溶剤 2,000 倍（収穫前日／3 回）

●カメムシ類防除のポイント

園内のカメムシ類の発生動向とあわせて防除を行いましょう。カメムシの移動範囲は広く、主な発生源は園周辺の各種樹木（主にヒノキ、スギなどの針葉樹）です。夜行性のカメムシ類は日没後 2 時間ほどしてから見られるため、薬剤防除は夕方に行いましょう。散布作業が始まると園外へ飛散しようとするため、地域でまとまって一斉防除することが理想的です。

4. ハダニ類対策

梅雨明けが早かったため防除の遅れに注意！

本年は非常に早い梅雨明け（6 月 27 日）となりました。ハダニ類は梅雨明け後に気温が高くなると増加が始まりますので、すでに増加が始まっている園があると考えられます。防除遅れとならないよう、園内のハダニ類発生状況をよく確認し、必要に応じて薬剤散布時期を早めましょう。

○ハダニ類防除薬剤

時期※	薬剤名	主な効果	登録内容
6 月下旬	カネマイトフロアブル	殺成虫・牝ハダニ対策	1000 倍・収穫前日・1 回
7 月上旬	ダニゲッターフロアブル	殺卵	2000 倍・収穫前日・1 回
7 月中旬	ダニコングフロアブル	殺成虫	2000 倍・収穫前日・1 回
8 月上旬～	マイトコーネフロアブル	殺成虫	1000 倍・収穫前日・1 回

※注意：梅雨明け時期を平年とした場合の目安です。必要に応じて散布時期を早めましょう。

農業経営のリスクを減らしましょう

～熱中症対策～

J A全農ちば 営農支援部

1. 新型コロナウイルス感染症防止対策と熱中症について

新型コロナウイルス感染症防止のため、マスク着用で農作業をせざるを得ない場面もあり、熱中症の発生にも一層の注意が必要です。屋外・ハウス内で他者と十分な距離（目安2m）を確保できる場合、もしくは会話をほとんどしない場合はマスクを外して作業しましょう。

2. 熱中症の症状

以下の症状が熱中症の代表的な症状です。これらの症状以外でも「暑い環境での体調不良」はすべて熱中症の可能性あります。

- (1) めまい・吐き気
- (2) 頭痛
- (3) 手足のしびれ
- (4) 汗が大量に出る・
汗が出なくなる



- (5) 身体・頭が熱い
- (6) まっすぐ歩けない
- (7) 筋肉のこむら返り
- (8) 意識障害

3. 熱中症対策

- (1) こまめに**水分・塩分補給**をしましょう

汗をかくと体内の「塩分」や「ミネラル」も放出されます。スポーツドリンクのように「塩分」と「糖分」を一緒に摂ると体内への塩分吸収が良くなります。高齢者はのどの渇きや気温の上昇を感じづらく脱水しやすいため、こまめな水分・塩分補給が必要です。

- (2) こまめに**休憩**を取りましょう

日陰等の涼しい場所で休憩し、作業着を緩め、手足を露出して体温を下げましょう。

- (3) 2人以上で作業、もしくは携帯電話等で**すぐに助けを呼べる体制**をつくりましょう

熱中症で倒れてしまった場合、処置が遅れると死亡事故に繋がるリスクが高まります。緊急事態にすぐに気づいてもらう環境づくりが大切です。

- (4) **暑さ指数**もチェックする

環境省から暑さの厳しさを示す指標が出ています。気温とともに参考にしましょう。

環境省：熱中症予防情報サイト：https://www.wbgt.env.go.jp/wbgt_data.php

4. 応急処置について

- (1) **水分補給**をしましょう！

経口補水液も有効です。水 1L に対して砂糖 40g、塩 3g で作れます。

- (2) 体温を下げましょう！

首筋、わきの下、脚の付け根などを冷やすとより効果的です。

- (3) 安静にして十分な休憩を取りましょう！

- (4) 救急搬送をしましょう！

自力で水が飲めない場合や、意識が無い場合には**119番**で救急車を呼びましょう！